

青森私教連学費滞納調査結果発表

6月29日(月)、青森私教連は県内私学20校のうち、中学2校・高校11校から集約した学費滞納調査の結果をマスコミ発表しました。

昨年度・経済的理由で中退

県内私立高校生4人

中退率0.07%、全国上回る

県私立学校教職員組合連合は29日、3月末現在の県内私立中高生の学費滞納と経済的理由による中退調査の結果を発表した。2014年度に経済的理由で中退した私立高校生は、回答した11校の生徒6044人のうち4人。中退率は0.07%

減少傾向が続き、5校が回答した前年同期は0人だったが、再び増加した。3カ月以上の学費滞納者は中高13校の6282人のうち102人で滞納率は1.6%。14年度から低所得世帯の私立高校生への補助が拡充したにも関わらず、前年同期の1.3%から微増した。また、経済的理由で修学旅行に参加できなかったのは7校29人だった。

県庁で会見した同連合の小野寺仁中央執行委員長と蒔苗克敏書記長は「進路変更などの理由で中退する生徒も背景に経済的負担があるケースが多く、4人の中退者は氷山の一角だと思う」と説明。中学生も公立に転校するケースがあるといい、「保護者の生活状況は苦しくなっていると考えられる。国と県の補助拡充が望まれる」と話した。(大友麻紗子)

↑ 東奥日報 6/30日付

私立高生、経済的理由の中退率

全国平均上回る

14年度県内

県私立学校教職員組合連合(小野寺仁中央執行委員長)は29日、2014年度の私立中高生の学費滞納状況などを発表した。高校生の経済的理由による中退率は0.07%で、全国平均の0.04%を上回る水準となった。

退した生徒は4人。国だ低所得者層には行き渡っていない「など」指摘した。(森内茂樹)

(森内茂樹)

↑ 陸奥新報 6/30日付

↑ テレ-東北 6/30日付

青森県内私立中高生

経済的理由の中退0.07%

14年度、全国ワーストクラス

青森県内の私立中学生、高校生のうち、2014年度に経済的理由により中退した割合(中退率)は0.07%で、全国でもワーストクラスにあることが29日、県私立学校教職員組合連合(小野寺仁委員長)の調査で分かった。中退者は4人で、過去3年で最多だった。経済的理由の中退は申告した11校の「進路変更」とすることが多いことなどから、同連合はこの数値を「氷山の一角」とした上で、「少子化の影響で私立学校は経営が厳しく、授業料を値上げせざるを得ない状況。保護者、学校双方にとって、経費補助の拡充が必要だ」と訴えている。同連合は、3月に学費滞納と経済的理由による中退について調査を実施。県内の私立学校20校のうち、中学校2校、高校11校の計13校(6282人)から回答を得た。調査結果を見ると、学校によって大きく差はあるものの、学費の滞納者数は3カ月以上が102人(1.6%)、6カ月以上が68人(1.1%)。経済的理由による中退は、高校4校で4人だった。家庭状況を見ると「母子(父子)家庭で、学費の支払いが困難だった」「父親が入院し、家計が苦しい」「生活保護を受けており、働かざるを得ない現状にある」など、学費を払う余裕がない状況が目立った。同日、県庁で記者会見した小野寺委員長と蒔苗克敏書記長は、「14年度から国が私立高校に通う生徒の低所得世帯への補助を拡充しているが、私立学校に通う世帯の貧困化の方が一層進んでいるのでは」と指摘。私立学校の経営も、少子化などで限界に近づいているとして「県や国による補助制度をもっと拡充しなければならぬ」と強調した。(中田理恵)

(中田理恵)